

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790900015		
法人名	医療法人松風会		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	名護市大西3-19-42		
自己評価作成日	平成27年8月10日	評価結果市町村受理日	平成27年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4790900015-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成27年9月25日

入居者の個性や生活習慣に合わせた。スタッフの生活支援を行うことで、安心した生活が送れるよう、人的・住居的環境の改善に取り組んでいる。1年を通して年間行事(納涼会、カジマヤーパレード&敬老会、ひだまり菜園じゃが芋収穫祭、レストラン昼食会、区民運動会参加、BBQ会(家族会))及び消防訓練に家族・地域の皆様に呼び掛け協力体制を取ることができた。又「囲碁」を通して、男性入居者の方々(中には、長い間囲碁をしていない方もいらっしゃいます。)囲碁友達の来客もあり、日中の活動において充実した交流を図ることができた。そして地域行事に参加し交流を図ったり、ドライブや近隣の散歩、家族とのコミュニケーションを多く持つことでより家族の面会・外出支援に繋がった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に立地し花壇は家族の皆さんが季節毎の苗木を植え花々が咲き、畑にはジャガイモやスイカなど栽培し「芋ほり収穫祭や納涼会のスイカ割り等」を家族、地域住民を招待し楽しんでいる。区の広報誌には、火災訓練等の行事や活動内容が掲載され事業所として認識を広め、地域住民の方々が参加しやすい環境を提供している。利用者家族の信頼と感謝を示す写真や記録物・物品が散見でき、管理者職員の姿勢を高く評価したい。法人・事業所は質の高いサービスを提供したいと考え、職員の介護福祉士・介護支援専門員等の国家資格取得にも協力支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成27年10月27日

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや生活の場面で判断に迷うときに理念と照らし合わせて判断している。	事業所開設時、管理者職員が検討を重ね「思いを込めた理念」を作成した事に共感し、現在の管理者職員も尊重し大切に掲げている。パンフレットや事業所内に掲示し、利用者家族には事前に説明している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に入居者と共に参加し、又ひだまりの行事に家族、近隣の方々、保育園、青年会、中、高校生、教会ボランティア等交流している。	市や区の敬老会や運動会には職員は準備から参加し利用者家族と地域交流し、納涼祭・カジマヤー等の事業所内行事には家族と共に地域住民を招待し、その様子を区の広報誌に掲載している。小中学生・大学生の職場体験等を受け入れている。	地域や事業所内行事で交流しているが、気軽に日常的な交流を目指し「喫茶コーナー」を模索している。地域に根差した介護事業所としてより貢献されるよう期待する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談時には、事業所の特徴や認知症についてわかりやすく説明している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、運営、行事報告及び入居者の生活状況を報告を行い、相談、アドバイスをもらっている。	2か月に1回定期的に利用者家族・行政担当者・区長・民生委員・福祉委員が参加し利用状況及びリスク管理・活動内容を報告し開催している。会議では法改正や他の委員からの意見について話し合いが行われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当事業所のサービスの取り組みで困った時には、連絡を取り情報交換を行っている。又名護市の敬老会は、動員と参加している。	市主催の敬老会には準備の段階から職員を動員し当日は希望する利用者の参加を支援している。市のケアマネ会議に参加し連携している。市から研修案内、行事や台風の知らせ等がFAXで届いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束の勉強会」を開催してスタッフ全体で理解している。『安全・安心の確保』と「自立支援」の視点で身体拘束を行わない支援を実施している。	身体拘束の勉強会に前管理者を講師として呼び、職員は身体拘束しないケアの大切さを理解している。リスクについて家族へ説明している。買い物の希望や外への散歩は自由に行けるよう職員が一緒に出かける支援をしている。		

沖縄県(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	
			実践状況	実践状況
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『高齢者虐待防止法の理解』の勉強会を開催しスタッフ全体で虐待や不適切な対応がないか話し合いを行うと共に、入浴脱衣介助の際に不自然な外傷がないかチェックしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内で権利擁護について勉強会を開催している。実際に該当する入居者は、いないが活用して支援していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別に面談を行い、入居利用約款、重要事項説明書の内容について説明を行い、入居者、家族の質問にも答え納得いただくことを心掛けている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、管理者が口頭で意見や要望の聞き取りを行っている。玄関と法人事務所に意見箱を設置し苦情・要望に関しては、報告書を作成してミーティング等で改善策を検討している	利用者は散歩やドライブ・家族との食事会等の要望があり「父の日ランチドライブや家族会BBQ・納涼会・カジマヤーのミチジュネー等」で対応し、家族は健康に穏やかに過ごしてほしいと思い面会や電話・家族会の機会に確認している。帰宅要求には職員付き添いで対応している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、法人幹部と運営推進会議を開催し、ケア支援から収入に至るまでグループホーム全体に関わる健全運営の検討を行っている。	職員が提案する事業所内行事等は実現し、シフト希望や欠員補充も対応している。介護福祉士や介護支援専門員の資格取得にも勉強会を開催し協力している。又踊り・車椅子修理・回想療法・レク等職員の得意分野を考慮し業務分担している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を基に、管理者会議や運営会議で職員個々の意欲向上に繋げる検討を行い、実施を評価している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム全体のケアの質の向上に向けた研修、法人内新人研修を実施。資格習得、自己研磨のための研修に参加できる様、勤務調整を行っている。	

沖縄県(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会に加盟し、情報交換を行っている。他グループホームへ見学して交流を図っている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	高齢者の心理的理解に加え、認知症を理解した上でコミュニケーションを図ることをスタッフ全員で確認している。必要に応じてケアプランに反映している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に本人、ご家族、関係機関からの要望等を取り入れられるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談の見学の時点で、グループホーム以外の選択も提示し、相談を傾聴して自己選択できるよう配慮している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主体は入居者個々であり、職員の仕事は、あくまでも生活支援であることを確認している。又家事や共同作業を行ったりコミュニケーションを図り、信頼関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出・外泊・病院受診等は家族の役割であることを確認する。家族と一緒に行事を計画し参加を促す又日常的な面会を促すことで家族との繋がりを保持する。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	カジマヤーパレードを通して、家族、地元住民、孫の保育園との交流図り、共に長寿を祝う。馴染みの場所へドライブ、外食、囲碁仲間との交流、友人面会支援、地域行事の参加し交流を行っている。	市内外には旧所名跡が残っており桜や紫陽花・古宇利島等にドライブや外食を楽しみ、市場に出かけ買い物しながら旧交を温めている。又家族や孫と外出を楽しみ友人の面会もある。利用者のカジマヤー祝賀会では地域の友人知人・孫の保育園・家族と職員が交流しパレードを楽しんだ。		

沖縄県(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個性、社公性や社会性を尊重しながら、必要に応じて、スタッフが入居者間を取り持つこともある。ホームに家族、友人、知人、地域の方々が面会しやすい環境作りや交流ができるように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には、必要な情報を提供し支援者と連絡を取り合って関係性を大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者のみではなくスタッフも共に生活支援の中で本人から聞き取りした情報や、情緒的な変化を申し送りをその都度スタッフ全体で共有している。	日常支援の中で「居室で休息・買い物したい・ドライブ・お洒落したい」等の意向を聞き、都度個別対応している。言語表現が把握しにくい利用者には笑顔や素振りで判断し、面会の際家族に報告しながら思いや意向に沿った支援を提供している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期相談の際に生活歴等を聞き取りしている。入居後も本人・家族から話しを聞く機会を持っている。又日々の会話の中から把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床後や必要に応じたバイタル測定等を実施し身体状況の確認を行うと共に、個々の生活行為を観察しながら情緒的な変化も含め観察を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態を本人と確認し、見直しが必要な場合は、本人、家族、関係者とサービス担当者会議を開催し、計画に反映している。	サービス会議は利用者家族・職員・介護支援専門員・管理者が参加し定時や状態変化に応じて開催している。「マーサマンが食べたい・囲碁を続けたい」等の要望を基にメニューとケアを組み合わせ作成し、モニタリングは3か月に1回行い主治医とも連携している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や、排泄、水分、食事摂取量等のチェック表から把握し、申し送りでの共有を図りカンファレンスなどで介護計画見直しに活かしている。			

沖縄県(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活・暮らしの視点で、入居者(本人)の希望に添えることを重視して、さまざまな選択肢を考えて実践に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	カジマヤーパレード、保育園児との交流、区民運動会、家族と外食を計画と実施、家族協力でひだまり花壇の手入れ、他デイサービスとのじゃがいも収穫祭、スーパーへ買い物を行ったり地域資源を活用する。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診、往診などの日時を把握し、受診の際は、情報提供や相談を行い主治医との連携を図っている。又家族が対応できない際はスタッフで対応している。	利用者は馴染みのかかりつけ医を継続していたが、家族の同意で協力医の訪問診療に変更した利用者もいる。受診は認知症・眼科・皮膚科の他科受診も含め、基本的に家族対応としているが、家族の都合が合わない時には職員が支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している法人の訪問看護ステーションとは、訪問を含めて情報交換を行っている。主治医への連携にも関わってもらいその後のフォローや相談も受けてもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、情報提供書の提出し主治医・看護師、医療相談員と面談を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化や終末期ケア対応指針」について担当者会議で家族と話し合い同意書を頂いている。今年度は、家族・医師・訪問看護と連携して1例の看取りケアを実践している。	重度化や終末期に向けたケア方針は、入居時に説明し利用者、家族の同意を得ている。今年看取りを行った事例では家族や医療関係者と連携して、密に対応策を話し合いケアを行った。職員も尊厳死について考える機会でもあった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変事のマニュアルの確認や事故発生に備えて実践力がつくように定期的に訓練をしている。消防訓練に消防員からAEDの操作方法の訓練を実施する。			

沖縄県(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を基に年2回訓練を定期的に行っている。2月に地域住民、家族、運営推進委員参加して実施している。通報・避難・消火器使用・AED使用方法の確認訓練を行っている。	防災訓練は事前に区長や近隣住民に書面で伝え年2回実施している。訓練には区長や住民が参加し「地域参加自主訓練と懇談会」を持ち新聞や広報誌に掲載された。停電時の電化製品も充電式で利用できるよう設置し食料や水等も備蓄している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の医学的・心理的理解も含めた上で、一人ひとりに合わせた声かけ・コミュニケーションを行っている。家族の面会時には、交流ができるように談話室でつづげるように対応している。	職歴や生活歴を把握し要望に沿った対応を行っている。「朝ゆつくりしたい方・新聞の購読・お洒落」など「何処でどの様に過ごしたいか」を尊重し又「その日の気分や体調に合わせて」生活支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者とのコミュニケーションの中で個々の希望があれば、実施できる様に全スタッフで取り組んでいる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	沖縄県グループホーム連絡会に加盟し、情報交換を行っている。他グループホームへ見学して交流を図っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族からの好みを聞いてその人らしい身だしなみができるように支援している。誕生会、敬老会は、本人が好む衣類や必要な物をプレゼントし行事の参加の際は化粧や髪を結んだり、職員が散髪支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの食事形態に合わせ調理している。もやしひげ取り、調理の下ごしらえ、お膳拭き、下膳等入居者が協力的に行っている。	利用者と職員で食材を購入し毎食調理している。献立はソーキ等の嗜好も考慮し家族や近隣者からの肉や野菜等の差し入れを活用している。皮むき等の下拵えに利用者は力を発揮し、職員もテーブルを囲み食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を用いて摂取量の確認を行っている。必要に応じて水分強化・食事時間・回数・形態を見直ししている。時に同法人老健施設管理栄養士のメニューを参考にしている。本人の嗜好も取り入れるように支援を行う			

沖縄県(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染症予防の視点からも、毎食後にうがいを行ってもらい、援助の必要な方に対し口腔ケアを支援している。訪問歯科の専門的ケアを実施している方もいる。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人カルテに排泄チェックを行い、パターンを把握し、個々に合わせた定期トイレ誘導を促し、排泄用具・オムツを使用し支援している。	排泄チェック表を用い利用者の排泄パターンを把握し尿便意やADLに配慮し誘導している。日中はリハビリ・布パンツを使用し夜間オムツ使用者は4名であるが入所時より排泄自立状況は改善している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味な入居者に対し、水分摂取の促しを行いながら、食事メニューで工夫したり、声かけにてトイレ誘導及主治医から処方された便秘薬の服薬支援を行って便秘の解消に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間を指定せずに当日の体調や気分に合わせて入浴を促しを行っている。又本人の希望で浴槽に入りたい際は対応を行っている。入浴チェック表で入浴施行日を把握している。	入浴日や時間は決めず、週に3回程度を基本としている。入浴チェック表を用い、本人の当日の気分や体調に合わせて入浴時間も調整したり浴槽での入浴に対応している。入浴時間を楽しくするよう好みのシャンプーを数種類取り入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、できる限り活動してもらい、休息できる環境の設定、空調管理に努めている。入居者の個々の睡眠習慣で過ごしていただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理しやすいように医師に相談し、薬剤師、訪問看護に服薬の一包化の対応してもらっている。服用後の経過観察をおこないながら、訪問看護、主治医に経過報告し薬の調整に連携しながら努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや嗜好品は、本人や家族から情報をもらい個々に応じて支援している。今回は、家族と景観の良い所での昼食会、納涼会で(流しそうめん)等一人ひとりが力を発揮できるように支援している。			

沖縄県(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者から希望に対して馴染みの場所に出かけたり、散歩したり可能な限り対応している。今回、本人・家族の希望でカジマヤーパレードを地元の方々・保育所・地域の協力で行うことができた。家族の協力で細目な面会あり又ほとんどの入居者が外出支援を行っている。		月2回定期的に花見・名所旧跡等の外出を楽しんでいるが、朝のドライブの希望者には「デイサービスの送迎」に同行したり・市場やスーパーの買い物や自宅を見に帰りたい等の個別の外出に気軽に対応している。又子や孫の家族と外出や外食を楽しむ利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のレベルに沿って、小遣い程度の金銭管理を行っている。本人が必要な買い物の支援を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自己管理で携帯を使用している方や、電話をかける方は、電話をしてもらい、支援の必要な方に対しては、代理で支援している。又手紙を出すための支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先の花壇は、四季を通して家族がボランティアで花を咲かせて和ませている。菜園には、野菜を植えて収穫祭を行い、中庭に観葉植物を置き手入れを入居者で行っている。又季節ごとに壁のレイアウトを行い季節感を感じてもらっている。		2か所ある談話室の1つには、たくさんの古書が並べられ図書室のようにゆっくり本を楽しめる空間になっている。もう一つは、家族や友人の訪問時の談話室となっていて、季節を感じる製作品を展示し、居心地よく過ごせる工夫をしている。リビングはカラオケや囲碁が楽しめる空間がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・談話室2カ所の共有空間を利用しそれぞれの過ごし方に合った環境を提供している。テレビやソファを設置し居心地よく過ごせる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者、個々に合わせて、部屋の環境整備自立支援に努めている。又転倒のリスクのある入居者の部屋には、床にクッションマットを敷き転倒予防に努めている。		清潔で整理整頓された居室には、使い慣れた趣味物など持ち込まれ、好みの配置となっている。玄関から裏庭を散歩でき、独りで休息しながら季節ごとの光や風を楽しめる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プライバシー・自立支援リスクの視点で環境作りを実践している。			